

# YKK精神に基づく企業の社会的責任

YKKグループは、YKK精神「善の巡環」、そして経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」の実践を通して、本業を通じた持続可能な社会への貢献に取り組んでいます。

## 基本的な考え方

YKKグループは、創業以来、“他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない”という思想に基づくYKK精神「善の巡環」を全事業を貫く精神的支柱としてきました。企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。私たちは事業をすすめるにあたり、この点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えてきました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できるという考え方です。この「善の巡環」の精神を根幹とし、経営理念である「更なるCORPORATE VALUEを求めて」のもと、「公正」を行動の基軸として、世界71カ国/地域で現地に根ざした事業を展開しています。

## 企業市民としての社会的責任

私たちには、企業市民としての責任があり、公正な企業経営を実践していくためにもこの責任を真摯に受け止めています。今、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。国際社会においても文化や慣習、考え方などの多様性を尊重し、事業活動を通して社会の発展に貢献する責務があります。YKKグループは、YKK精神「善の巡環」、そして経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」の実践を通して、これからも本業を通じて持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

## 推進体制

YKKグループでは、ISO26000の7つの中核主題を参照しながら、各領域の担当部門の活動をグループ横断的な目線で支援し、全体の活動をより詳細に把握するために、2014年4月より検討委員会を設置しています。2016年度は、3回（6月、10月、3月）の検討委員会を開催しました。



検討委員会の様子



## 担当役員より

本活動も3年目に入り、領域ごとに見えてきたテーマや課題に対して着実に対応する体制が整ってきました。一方で、YKKグループ全体としてグローバルな視点で見た際、事業・市場・地域ごとの課題やステークホルダーからの多様な期待へどのように対応していくかという点については、これまで以上のスピードで取り組んでいく必要があります。

YKKグループには「善の巡環」というYKK精神が既に基盤としてありますが、この強みを活かしながら、更なる活動の強化につなげるとともに、引き続き本業を通じた課題解決、社会への新たな価値提供につなげていきたいと考えています。



検討委員会委員長  
YKK株式会社  
執行役員 経営企画室長  
**本田 聡**

## 活動目標と実績

ISO26000の中核主題別に「重点テーマと対応策」を定め、年度目標を設定した活動を推進しています。以下、2016年度の主な活動実績と今後の目標をご紹介します。

### 2016年度主な活動実績と2017年度活動目標

中核主題	重点テーマと対応策	2016年度主な活動実績	2017年度活動目標
組織統治	マネジメント体制の構築	・検討委員会の継続開催（3回/年）	・検討委員会の継続開催（3回/年）
人権	全社的な人権方針の浸透	・全世界のYKKグループ社員に方針内容・主旨を共有（全社員/海外においては一部管理職に限定）	・人権・労働慣行に関するガバナンス体制を構築 ・四半期レポートに人権、労働法令に関する項目を追加 ・四半期毎に各極人事部門と進捗状況を確認（4回）
労働慣行	差別のない人材育成機会の提供	・国際人事担当者会議にて各極人事担当者に説明 ・四半期レポート運用スタートに向けた検討・準備完了	・報告基準の決定 ・四半期毎に各極人事部門と進捗状況を確認（4回）
	安全で安心して働ける職場環境の整備	・海外拠点への安全衛生支援の実施（4社） ・YKKグループ安全衛生基準の発信・周知（YKKグループ全社） ・労働災害情報収集のルール整備	・海外拠点への安全衛生支援の実施 ・YKKグループ安全衛生基準の遵守状況確認
環境	海外ガバナンスの強化	・海外環境経営監査の実施（16社） ・環境経営評価制度の基準案作成、試行（2社）	・海外環境経営監査の継続実施（16社） ・環境経営評価制度の運用
	持続可能な調達と気候変動への適応	・各拠点ごとに気候変動に伴うリスク評価、リスク特定	・サプライチェーンとの協働による環境負荷低減 ・自然災害リスクの調査・把握
公正な事業慣行	YKKグループコンプライアンス基準に基づくコンプライアンス推進	・国内外YKKグループでの評価の実施（107社） ・新基準の策定と配布	・中国・アジアにおける事業会社外部監査の実施（9社） ・地域で自己運用できる体制の確立支援 ・策定基準の見直し
	CSR調達の強化（YKK）	〈日本〉 ・サプライヤー調査実施（103社からのフィードバック、4社の監査） ・期待レベル未達の取引先に対するフォロー実施（8社） 〈中国〉 ・総括責任者との対話の実施 ・各社でのサプライヤー調査実施に向けた取引先リストの作成 〈アジア〉 ・台湾社にてサプライヤー調査実施（4社） ・台湾社にて実態調査・監査の実施（3社）	〈日本〉 ・サプライヤー調査（106社）及びフィードバック監査を実施 〈中国〉 ・サプライヤー調査・監査実施（5社） 〈アジア〉 ・事業会社への説明会およびサプライヤー調査・監査実施
消費者課題	トレーサビリティの強化	・商品の安全と信用に対し、説明責任と透明性を確保できるトレーサビリティ体系の確立（YKK） ・トレーサビリティに関する情報管理について生産工程の記録管理期間の見直し（YKK AP） ・行政主催のイベントへの参画（2回）（YKK AP） ・業界団体を通じた情報提供（1件）（YKK AP）	・材料受入検査実施ガイドライン徹底（監査の実施）（YKK） ・トレーサビリティに関する情報管理体制づくりの検討（YKK AP） ・行政・業界団体主催の活動参画（YKK AP） ・他業界との情報交換など活動拡大（YKK AP）
	有害物質削減の推進（YKK）	・台湾社製片面透明フィルムの切替えとVS熱転写フィルムの切替え（有機スズ）	・対象2物質（3アイテム）の切替え推進（有機スズ化合物2、ナフタレン1）
	消費者の権利を守るための体制づくり（YKK AP）	・使い方・お手入れガイドブックの改訂（28件） ・QRコード対応の拡大（5アイテム） ・ホームページでの安全啓発（2件） ・お客様センターホームページの開設と情報提供（6件）	・各種情報提供の継続実施（新規・改訂） ・QRコードによる情報提供商品の拡充 ・ホームページなどでの安全啓発 ・お客様センターの活動拡充
	ライフサイクル全体や3Rに配慮した商品の開発・普及（YKK AP）	・エコ商品開発比率（100%） ・社外アワード受賞（2件） ・2015年度の商品のCO <sub>2</sub> 削減貢献量算出 ・ライフサイクルCO <sub>2</sub> 削減関連情報発信（2件）	・エコ商品開発比率（100%） ・商品のライフサイクルアセスメント第三者評価基準作成 ・ライフサイクルCO <sub>2</sub> 削減関連情報発信（2件）
コミュニティー参画	ステークホルダー・ダイアログの強化	・トップダイアログの実施（2回） ・地域コミュニティー（富山県黒部市）とのダイアログ実施（1回）	・トップダイアログ実施（1回） ・地域コミュニティー（富山県黒部市）とのダイアログ実施（1回）
	「企業の社会的責任」に関する外部への情報開示強化	・リリース配信・個別取材（7回）	・リリース配信・個別取材（8回）